

大分県立高等学校第三者評価【評価書】

大分県教育委員会

評価実施年度	平成 27 年度	学校名	大分県立 大分豊府 中学校	
学校教育目標	創造的な知性と豊かな人間性、逞しさを備え、高い志を持って国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育てる。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
学校の組織運営	学校経営ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> 時代、社会のニーズや学校の教育課題を踏まえた目指す学校像が設定できているか。 自己評価・学校関係者評価等を活用し、学校の抱える課題解決に向け、目標の重点化が図られているか。 目標達成へ向けた方策が適切に策定され、効果的に実施されているか。 校長の的確なリーダーシップの下、教職員と共通理解を図り、参画意識を高めているか。 	極めてよい。中高一貫の視点から学校経営ビジョンを明確にしており、校長の強いリーダーシップのもと、学校が抱える問題の解決、社会の要請をとらえた人材の育成を図ろうとする姿勢が顕著である。喫緊の課題に対して全教職員による共通理解を図り、解決に向けた具体的かつ計画的な方策が策定されている。	平成28年度から新しく運用される教職員評価システムと連動した学校経営計画の作成を推進する。また、分掌・教科・学年経営計画の作成についても共通理解を図ることができ実効性のあるものとしていく。
	組織的運営・責任体制	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。 教育目標、学校評価実施計画に沿ったものになっているか。 目標達成に向けたPDCAサイクルが定期的実施され、検証・改善が行われているか。 	極めてよい。分掌組織を整備、統合し、中高共通の校内体制とすることで、各分掌の役割を明確にしている。また、学校教育目標の達成に向けて、効果的にPDCAサイクルを回し、改善策を講じることができるよう、取組のスケジュール化、体系化、視覚化が図られ、担当部署による進行管理が適切になされている。	中高共通で組織している4領域の連動をより一層強める。またそれぞれの領域の担う役割や業務を明確化し、各領域主任の権限と責任の強化することで、より組織的に運営する。学級担任については、業務の精選を行う。
	服務監督・危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> 内規、危機管理マニュアル等は整備されているか。その内容は適切か。 事件・事故に対して適切な対応がなされているか。 服務規律研修が定期的に計画され、効果的に実施されているか。 	極めてよい。防災管理・危機管理マニュアルを教職員がパソコンのデスクトップ上に置き、必要に応じて確認するとともに危機管理意識の向上に努めている。マニュアルは現状に合致したものとなるよう適宜改訂が図られている。	危機管理マニュアルを常に見直すとともに、最新の災害情報収集システムについて職員による研修を重ね、迅速に対応できる体制を構築する。また、実際の危機事案発生に対応できるシミュレーションを行い、それに基づいた生徒の防災訓練を実施する。
	家庭・地域との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。 ホームページの活用をはじめ、学校便りの発行など、保護者や地域への情報の伝達・公開が適切に行われているか。 	極めてよい。生徒が全県から通学していること、県内唯一の県立中学校であることに鑑み、生徒の学校生活の様子を家庭、地域に適切に知らせるため、行事後にすぐにホームページを更新するなどの手立てがとられている。また、各種集会等をととして詳細な情報が家庭に提供されるなど細やかな対応がとられている。	行事や日々の活動について、家庭や地域へ発信できるよう、より一層HPの更新を継続していく。加えて保護者向けメール配信サービス(39メール)により、細かな情報についても確実に保護者と共有できるよう、今後も活用する。
学習指導進路指導	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の授業の中で、生徒が集中して意欲的に学習に取り組んでいる姿勢が見られるか。 教師の熱意が伝わり、授業技術が適切で、ICT等活用したわかりやすい授業が行われているか。 授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図り、生徒の活発な授業参加が見られるか。 授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体として取り組んでいるか。 	良い。ICTの効果的な活用、話し合いの時間の設定など工夫された授業が実践されており、生徒は意欲的に取り組んでいる。また、教員相互及び管理職による授業観察により各教員が改善事項を整理してよりよい授業を目指す体制が整っている。生徒の授業アンケートをもとに教員と生徒の授業に関する意識のギャップから課題を把握し、授業改善を推進することが必要である。	学校全体として取り組んでいる「基礎学力及び思考力・判断力・表現力育成」について、そのシステムを見える化し、全職員が共働して推進できるようにする。なにより生徒一人ひとりの能力・適性に応じた指導方法の工夫改善を今後も推進する。
	進路指導体制	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体として、生徒の発達段階や学力、進路希望に即し3年間を見通した適切な体制が整備されているか。 自分らしい生き方、在り方を考えるキャリア教育の視点を持ち、組織的に取り組んでいるか。 自らの進路に対し、相談したり、資料や情報を調べたりできる体制が整備されているか。 	極めてよい。中学校での3年間及び中高での6年間を見通した進路指導体制が整備されている。生徒の将来の希望を適切に把握するとともに、さらに高みを目指す意識を涵養するよう組織的に指導がなされている。将来の目標とその理由にあわせ、どのように中学校生活を送りたいかを明確に述べる生徒が多数いることから、適切なキャリア教育が行われていることが推察される。	中高一貫校のメリットを最大限活用し、高校と連携して6年間の進路シラバスの更新、改訂を重ねる。自己の進路や生き方について考える最もよい時宜を検討し、発達段階に応じた適切な進路情報の提供を工夫する。高校卒業生の講話等、身近な先輩の力を活用していく。
	個別指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望達成に向けた、個に応じたきめ細かい進路指導が行われているか。 理解が不十分な生徒への補充学習や、学習意欲の高い生徒に対する発展的指導がなされているか。 各種資格取得に向けた指導など、生徒のニーズに応じた学習指導がなされているか。 	極めてよい。学習習慣の確立と進路意識の向上のための各種取組に加え、放課後の個別指導、土曜日のハイレベル、検定対応の講座など、生徒個々のニーズに応じたきめ細かい指導がなされている。高校での学習と高校卒業時を見据えた有益なアドバイスがなされており、学力向上に成果をあげている。	従来の取組に加え、学習が遅れがちな生徒の指導体制を検討し、個に応じた組織的な取組をより充実させていく。また、あらゆる機会を活用して知的好奇心を高め、自ら学ぼうとする意欲を一層喚起する。
	学力・進路の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 学年が進行するほど、生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 学年が進行するほど、進路が明確になり、主体的に進路選択をすることができているか。 生徒の第一志望による進路目標の達成ができているか。 	極めてよい。学年が進行するにつれ、学力が向上している点は評価できる。学習意欲の持続、学力のさらなる向上、進路意識の明確化にむけて、今年度、進路指導シラバスを作成した。各学年段階で目標とする生徒像とそれを達成するための具体的な活動について整理、体系化しており、次年度以降さらに改善、充実を図ること、自発的に学びに向かう豊府中学生の育成を目指している。	5年後の大学入試システムの変更を見通し、思考・判断・表現力を高める授業づくりを推進する。また、中高の教員間で学力向上や進路達成状況についての情報を共有化し、6年間を見通した教科指導体制を早期に構築する。
生徒指導特別活動等	心の教育	<ul style="list-style-type: none"> 相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成するための指導が行われているか。 社会の一員としての意識を身につけた生徒を育成するための指導が行われているか。 命の大切さなどについての指導が行われているか。 	極めてよい。校訓の「感動、理知、友愛」に基づき、生徒がよりよい学校生活を送れるように指導、支援がなされている。学校生活の様々な場面を通して、生徒が人間関係をよりよく構築できるようにする取組が行われており、教育相談も充実しているので、学校における心の居場所を多くの生徒が見出すことができているようである。	各行事を通じて、学校・学年・クラスの団結力や帰属意識を今後とも醸成していく。明確な目的意識を持って学校行事を計画し、前年踏襲ではなく生徒の現状を踏まえた見直しや改善を図り、その効果を検証していく。
	生徒指導・教育相談・特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教職員全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。 生徒理解、生徒指導のための面談・相談が計画的に行われ、実態に応じた指導が行われているか。 いじめ防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ問題に対して適切な対応がなされているか。 特別な支援を必要とする生徒の実態把握や、具体的な教育支援を検討する体制が整備されているか。 	極めてよい。不登校対策委員会、特別支援教育推進委員会等で生徒の状況について共通理解を図り、支援を行う体制が整っている。また、生徒の成長段階に応じた教育相談・生徒指導の取組が計画的に実施されている。いじめ、不登校等については、それらを未然に防ぐために、スクールカウンセラーによる支援や面談の充実による生徒状況のみとりが丁寧になされている。	教育相談においては、スクールカウンセラーや外部専門機関と連携し、家庭・学校が協力しながら今後も運営していく。また、こまりを抱えた生徒に対し、高校と連動して合理的配慮を提供できるシステムを構築していく。
	特別活動・部活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、生徒会活動等が生徒や学校、地域の実態等に応じて工夫して取り組まれているか。 部活動が生徒の主体性を促し、心身の発達に応じたものとなっているか。 	極めてよい。部活動加入率が90%を超えるなど、文武両道を目指した指導体制が整っており、生徒の主体的な取組が見られる。また、個人や団体による各種コンクールへの出場、出品が積極的になされており、いずれも好成績を収めている。特別活動、部活動を通して、縦の人間関係を豊かにする取組がなされていることは評価できる。	生徒の安全性を考慮し、今後も部活動2人顧問制を導入していく。また、生徒の自治力育成のための生徒会活動も、一層推進していく。対外コンテストについては応募を推奨し、新たな活躍の場を提供していく。
	保健・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の保健管理のための体制が整備され、保健指導・保健相談が実施されているか。 日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が実施されているか。 校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 家庭や地域の関係機関、団体との連携を図りつつ、生徒の安全を確保するための具体的な取組が行われているか。 	極めてよい。通学路における安全点検や自転車通学生に対する交通指導が適切になされている。また、生徒の保健管理の面から、保健室の利用状況等を分析して、保健だよりにより生徒、保護者に望ましい生活のあり方について周知するとともに、学校行事のあり方の見直しを図って生徒の心身の健康の保持に努めている。今後さらに安心して過ごせる学校づくりに取り組んでほしい。	広い通学範囲であるが、自転車事故のめざし、特に入学時での指導を徹底する。また、自転車講習会や、集会などを開催し、安全運転に対する意識を高める。また、保健だよりをHPに掲載し、健康に関する注意喚起や情報提供の一助とする。
総合評価	<p>県下初の県立併設型中高一貫校として注目度の高い中、県民の期待に応えるとともに、生徒が行きたい学校、保護者が行かせたい学校になっている。中高一貫の視点によって詳細な学校経営計画を策定し、学校課題に照らして焦点化することで学校経営ビジョンを定め、学校教育目標達成にむけて分掌組織を整理・統合するなど、校長の確かなリーダーシップが見られる。学校教育目標の達成にむけて、学校経営ビジョンの教職員への浸透を図り、学校経営ビジョン、学校経営計画、学校評価を適切に関連付けて、プロジェクトリーダーである領域主任がPDCAサイクルを機能させて組織的に検証、改善を行っている。学習指導、進路指導については、中高の6年間を見通した指導体制が整備されており、生徒の学習意欲の高まりを促す実践が行われている。確かな学力の育成にむけて、授業の各単元、あるいは1時間で、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、めあての提示、課題設定、まとめのある授業への改善が行われており、また、ICTの効果的な活用のための工夫、検討が学校全体で行われている。保護者に対しては、生徒の学校での様子を伝えるために、行事後にホームページをすぐに更新したり、各種集会において詳細な情報を提供したりするなど、ニーズに応じた丁寧な対応がとられている。今後とも、校訓である「感動、理知、友愛」に基づく教育活動を通して生徒の意欲と能力の向上を図るよう、保護者、地域、県民の期待に応えるよう教職員が組織的に取り組む学校づくりが期待される。</p>			
校長コメント(次年度の改善策)	<p>県下唯一の併設型中高一貫校としてのあり方を今後も追い求め、県民の期待に応える学校づくりを目指し、次の4点を重点的に改善・推進していく。</p> <p>① 中高6学年の生徒の教育活動及び中高連携した業務遂行が全教職員の共通理解の下円滑に進行できる学校経営計画等を作成し、高校と連携したミドルリーダー(領域主任)によるミドルアップダウン型組織を確立する。</p> <p>② 現中1生が受験する「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」に対応できる教科指導及び進路指導体制の改善を高校と連携し組織的に行う。また、東大をはじめとする難関大学のAO・推薦入試募集人員増等に対応する、より高度な思考力・判断力・表現力を育成する教科指導を進化させる。(世界標準学力の育成)</p> <p>③ 中学3年間が多感な成長の時期であることを全教職員が理解し、生徒の心の成長を促すため、学校行事等の見直しを更に進める。また、学業と両立できる部活動のあり方について更に研究を進め、本校にふさわしい部活動指導システムを確立する。</p> <p>④ 特別な支援を要する生徒に対し合理的配慮の提供を柱とする教育相談体制等を再構築する。また、学習が遅れがちな生徒に対する学習指導・進路指導のあり方を研究する。</p>			